

6月の農作業

平成22年6月10日
J A テ ラ ル 越 前
奥越農林総合事務所

今月のポイント

- ☆溝切りと中干しの徹底
- ☆オリゼメート粒散布でいもち病防除
- ☆ネギの排水対策（梅雨入り前まで）
- ☆特産野菜・花卉の病害虫防除の徹底
- ☆穂肥（早生）の適期施用

1. 今後の気象予想

（新潟地方気象台）

北陸地方 1か月予報

（5月29日から6月28日までの天候見通し）

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

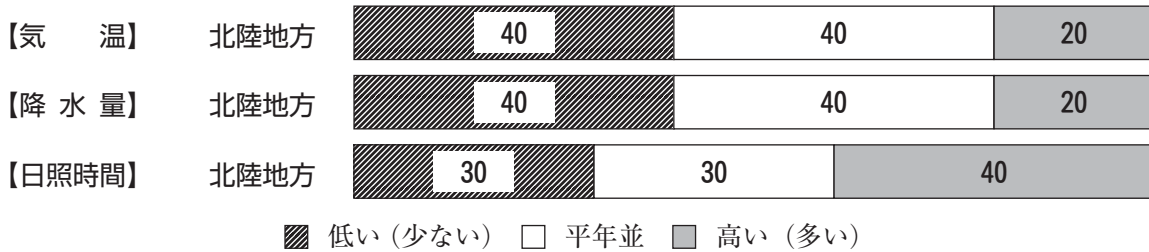
期間の前半は天気は数日の周期で変わっていきましょう。期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並または低い確率ともに40%です。

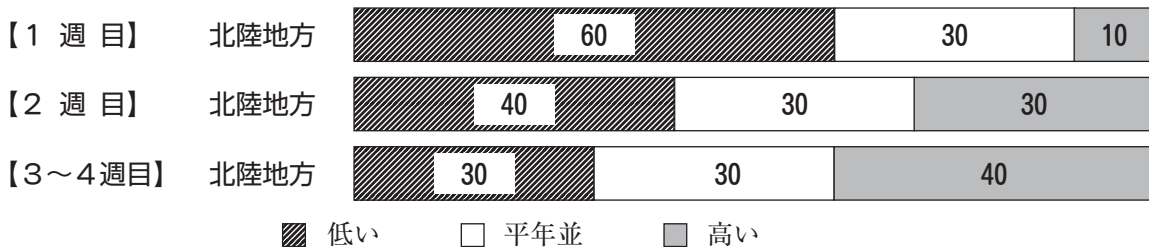
降水量は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は低い確率60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉



〈気温経過の各階級の確率(%)〉



〈予報の対象期間〉

- 1 か 月：5月29日（土）～6月28日（月）
- 1 週 目：5月29日（土）～6月4日（金）
- 2 週 目：6月5日（土）～6月11日（金）
- 3～4週目：6月12日（土）～6月25日（金）



北陸地方3か月予報

（6月から8月までの天候見通し）

予想される向こう3か月の天候

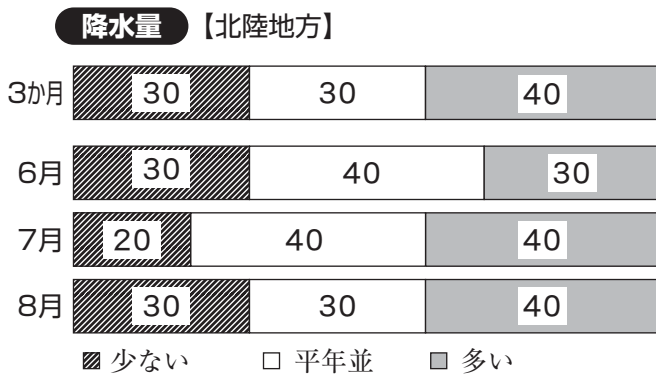
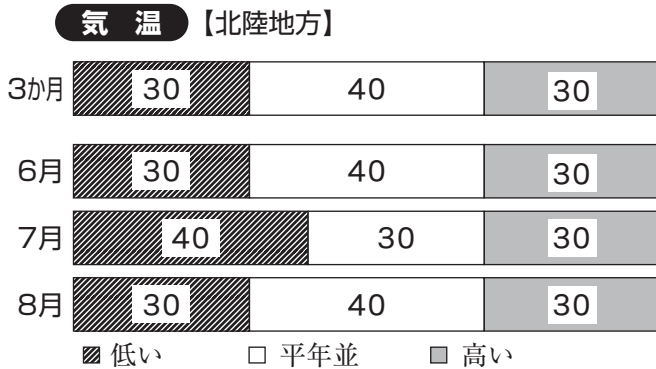
向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は左記のとおりです。

【6月】 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

【7月】 平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。

【8月】 平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率（%）〉



2. 農産物対策

水 稲

補植用苗の除去・

オリゼメート粒剤の

散布を早急に！

中期 本田管理の流れ

軽い田干し ↓ 溝切り ↓

中干し ↓ 間断通水 ↓

溝切り

溝切りは中干しや後期の水管理（間断通水）を容易にし、本田の部分的な湛水を抜き、根の活性化を促すことを目的に行います。

溝切りの時期

5月15日までに田植え

6月5～10日頃

5月15日以降の田植え

6月10～15日頃

中干し

① 中干しは無効分けつの抑制と土壌中の通気性を良くし、有害ガスを除去直下根の伸長を促進させます。

② 無効分けつを抑え、加里やけい酸の吸収を多く、丈夫な茎を作り倒伏防止につながります。

③ 中干しは幼穂形成期まで行い、終了後は一度に湛水状態に戻さず、初めは浅水管理を行い徐々に間断通水を行いましよう。

特に漏水しやすい部分に大きなヒビが入らないように注意しましょう。

* 開始時期の目安

5月10日前

6月10～15日頃（1株18本で開始）

5月10日以後

6月15～

20日頃（1株18本で開始）。

* 暗渠のある水田では、中干し期間中は暗渠のフタを全開にしておいてください。

* 乾田や黒ボク田では、軽くヒビが入る程度の中干しとしてください。

除草剤

バサグラン粒剤

ヒエ以外の雑草の多い圃場では、落水後10a当たり3～4kg散布し、4～5日は入水しないでください。
注意：使用時期は、田植え後50日まで（収穫60日前）です。

ヒエクリーン1キ口粒剤

ヒエが多く残った圃場で、ヒエの4葉期まで効果があります。湛水状態で散布し、4～5日は湛水を保ってください。

ヒエクリーンバサグラン3キ口粒剤

ヒエ・広場雑草が残った圃場で使用いたします。晴天を予想し、落水後に散布し、少なくとも2～3日は入水しないでください。その後は入水し、通常の湛水状態を保ってください。散布後、7日間は落水・かけ流しは行わないでください。

葉いもち病の発生予防

（オリゼメート粒剤の散布）

◎オリゼメート粒剤の散布時期

6月上、中旬（全品種）

(1) 但し、ジャツジを箱施薬した圃場では、通常は散布の必要はありません。

(2) 常発地では、天候の具合を見て、6月下旬にオリゼメート粒剤を散布してください。

(3) 圃場の補植用苗は、葉いもち病の発生源となりますので、早急に取り除き、処分してください。

▼主な使用薬剤
いもち病予防

オリゼメート1キロ粒(出穂3〜4週間前まで使用可)

いもち病初発

イモチエース粒剤(収穫35日前まで使用可)

いもち病治療

ブラシン粉DL(収穫21日前まで使用可)

カスラサイド粉DL(収穫14日前まで使用可)

紋枯病防除

モンカットF粉DL(収穫14日前まで使用可)

穂肥

穂肥の施用量や施用時期は、米の収量、品質及び食味に最も影響を及ぼす稲作づくりのポイントです。

穂肥は籾数の増加や千粒重の増大などの効果がありますが、施用方法を誤ると倒伏したり、食味の低下を招くので必ず幼穂を確認し、葉色・生育を見て施用しましょう。

注意：一発肥料を施用されている圃場では、原則として穂肥は必要ありません。しかし、次年度対応及び収穫予想日の判断材料となるため、幼穂形成期や出穂期の確認を行きましょう。

畦畔の草刈りの徹底

例年、山沿いの圃場などで斑点米の原因となるカメムシが多く発生します。カメムシの被害は、出穂後の薬剤散布と合わせて、出穂期までの畦畔の草刈りをこまめに行うことで、カメムシの生息地を

なくし効果的に防除できます。

イナゴ防除

近年、管内にてイナゴの発生が多く見られます。6月下旬〜7月上旬にかけて幼齢虫が発生します。多発地帯では発生を見たら、アルバリン粉DLを散布し防除に努めましょう。

詳しくは、お近くの支店の営農指導員にお問合せください。

ネギ

1、排水溝の再整備

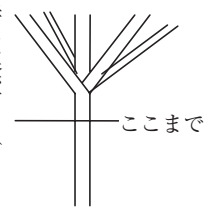
梅雨入り前に排水溝の再整備を行い、排水性を高めてください。

2、除草と碎土について

ソバ跡圃場でソバが大量に発生している圃場があります。ソバが大きくなる前に管理機等で鋤きこむと同時に碎土率を上げ、土寄せ作業が行いやすいようにしてください。また、碎土率が悪い(ゴロゴロした土が多い)についても同様な管理を行ってください。碎土率の悪い圃場やソバが大きくなったしまった圃場(根の塊が多い圃場)では、曲がったネギが多くなります。

3、土寄せについて

本格的な土寄せ作業は、茎の太さが8mm程度になってから行ってください。また、土寄せを行う時は襟首(えりくび)までの土寄せとしてください。



土寄せ初期から襟首(えりくび)以上の土寄せを行っていると細いネギが多くなります。

4、防除について

(は毒劇物)

○スリップス類、軟腐病対策

農薬名	散布量(10a当たり)	使用時期	使用回数	備考
ジャッジ粒 (ネギアザミウマ・軟腐病)	3kg	梅雨入り前に施用する。 (土寄せ時に株元散布)	1回	収穫45日前まで
オリゼメート粒 〔軟腐病〕	6kg	梅雨入り前に施用する。 (株元散布)	1回	収穫30日前まで

※上記薬剤のいずれかを使用してください。

○ネギハモグリバエ対策

農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
アルバリン顆粒水	400倍	収穫14日前	1回以内	0.4ℓ/m ² を株元に灌注

ナス

1、誘引

誘引方法は「縦糸誘引」とし、合掌上段の直管パイプに35〜37cmで、等間隔にビニール紐(白糸系統が望ましい)を結び、下段の直管パイプまで引き結びます。このビニール紐に4本の主枝が伸びてきたら、随時ビニール紐に結んでいきます。この時「テープラー」を使用すると作業が簡易になります。

2、ホルモン処理

1〜3番花の石ナスの防止および着果以後の生育を安定させるため、開花当日の花にトマトリン50倍液を花卉がぬれるまで噴霧します。尚、二重散布を避けるため食紅を入れます。



花卉

キク

梅雨期に入りますが出蕾から定植まで一度に作業が重なります。遅れないように確実に作業を行います。

7月咲きの管理

○出蕾期に入り中輪ギクでは摘蕾作業を行います。早めの作業を心がけてください。

○Bナイン（ホルモン剤・伸張抑制・800〜1000倍）は最も早い蕾が確認できた時と摘蕾時に1回ずつ散布します。

○中輪ギクは花卉の病気予防のため、全て雨除けハウスをかけます。

8月咲きの管理

○6月上旬までに畝の外側に遅効性の肥料を施用します。（1畝当り10kg）その後、土寄せをします。

○降雨後、天気が続くと新葉が縮れたり、葉やけ状態になる品種があります。ひどくなると芯止

まりになりますので、Bナインを100倍程度で散布してください。

9月咲きの管理

○6月上旬までには9月咲きの品種のピンチ（摘芯）を終えます。

○ピンチ後、20日程度で草丈が5cm以上になります。1株3本前後ですぐり（間引き）を行います。

○すぐり後は株張りが十分ではないので、雨風などで倒れる恐れがあります。早めにネットを上げてください。

10月咲きの管理

○開花時期に合わせて順次挿し芽・定植・ピンチ（摘芯）を7月上旬までに終えるように行います。

【病害虫防除】

梅雨期に入ると病害虫が発生しやすくなります。早めの予防を心がけましょう。また、出荷時は菊に付着している水滴を良く乾かして梱包しましょう。

○白さび・黒斑褐斑・灰色カビ病

▼主な使用農薬

ジマンダイセンフロアブル・ラリー乳剤・ダコニール1000・ベン

レート水和剤など

○スリップス（アザミウマ類）

蕾の中にスリップスなどが入りやすと防除が困難になり品質が低下しますので、開花の早い品種から防除を徹底してください。

▼主な使用農薬

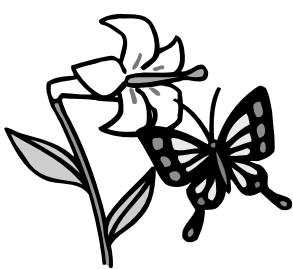
ジェイエース水溶剤・ハチハチ乳剤・コテツフロアブル・テルスターフロアブル

○ダニ

背丈が20〜30cmに達した品種からピンポイントに防除します。この作業を怠ると梅雨明け高温乾燥期のダニの大発生につながります。

▼主な使用農薬

ニツソラン水和剤とオサダンフロアブルの混合剤を他の農薬と混ぜないで散布します。（品種ごとに1回ずつ）



ユリ

○6月中旬までは液肥料（OKF1500〜1000倍）を1週間に1度程度施用します。

○降雨後、急激に温度が上がるとカルシウム欠乏症（葉先が褐変したり、リング状のかすりが入る症状）が出やすくなります。

▼対策

微量要素入りの肥料（サンメイト）の500倍液を施肥前日に溶かして施用します。

【病害虫防除】

○葉枯病

葉枯病が発生すると農薬を散布しても病気を抑えにくいので、予防防除を徹底しましょう。

▼主な使用農薬

ICボルドー66D（草丈20cmまでの使用）・ダコニール1000・フロンスайд水溶剤・フルピカフロアブル

○アブラムシ

▼主な使用農薬

ジェイエース水溶剤・トレボン乳剤・アドマイヤーフロアブル